

(再評価)

利根川総合水系環境整備事業 (鬼怒川環境整備)

令和7年8月26日

国土交通省 関東地方整備局

目 次

1. はじめに	2
2. 総合水系環境整備事業の事業評価に係る運用の変更について	3
3. 流域の社会情勢の変化	4
4. 事業の進捗状況と見込み等	8
4. 1 事業の目的と計画の概要（継続・新規・完了箇所）	8
4. 2 事業の進捗状況（継続箇所）	9
4. 3 事業の見込み等（整備内容の変更）	12
5. 事業の投資効果	13
6. コスト縮減の取組	18
7. 関連自治体等の意見	19
8. 今後の対応方針（原案）	20
（参考）	21

1. はじめに

今回事業評価を実施する理由

- 新たに整備箇所を追加したため、事業費・事業期間・事業箇所を見直し、事業計画を変更するため(鬼怒川・小貝川かわまちづくり)

※「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」の第3 1(5)「社会情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業」に該当。

※ 前回評価(令和3年度)以降、5年を経過していないものの、上記理由により再評価を実施。

【前回再評価(令和3年度)からの主な変化】

■総便益の変化

- ・ CVM調査実施によるWTP(支払意思額)の変化、受益世帯数の変化
- ・ 現在価値化基準年の違いによる変化
- ・ 個別完了箇所評価を実施した箇所は費用便益分析の対象外となったことによる変化※

■総費用の変化

- ・ 鬼怒川・小貝川かわまちづくりの事業費追加による変化
- ・ 現在価値化基準年の違いによる変化
- ・ 個別完了箇所評価を実施した箇所は費用便益分析の対象外となったことによる変化※

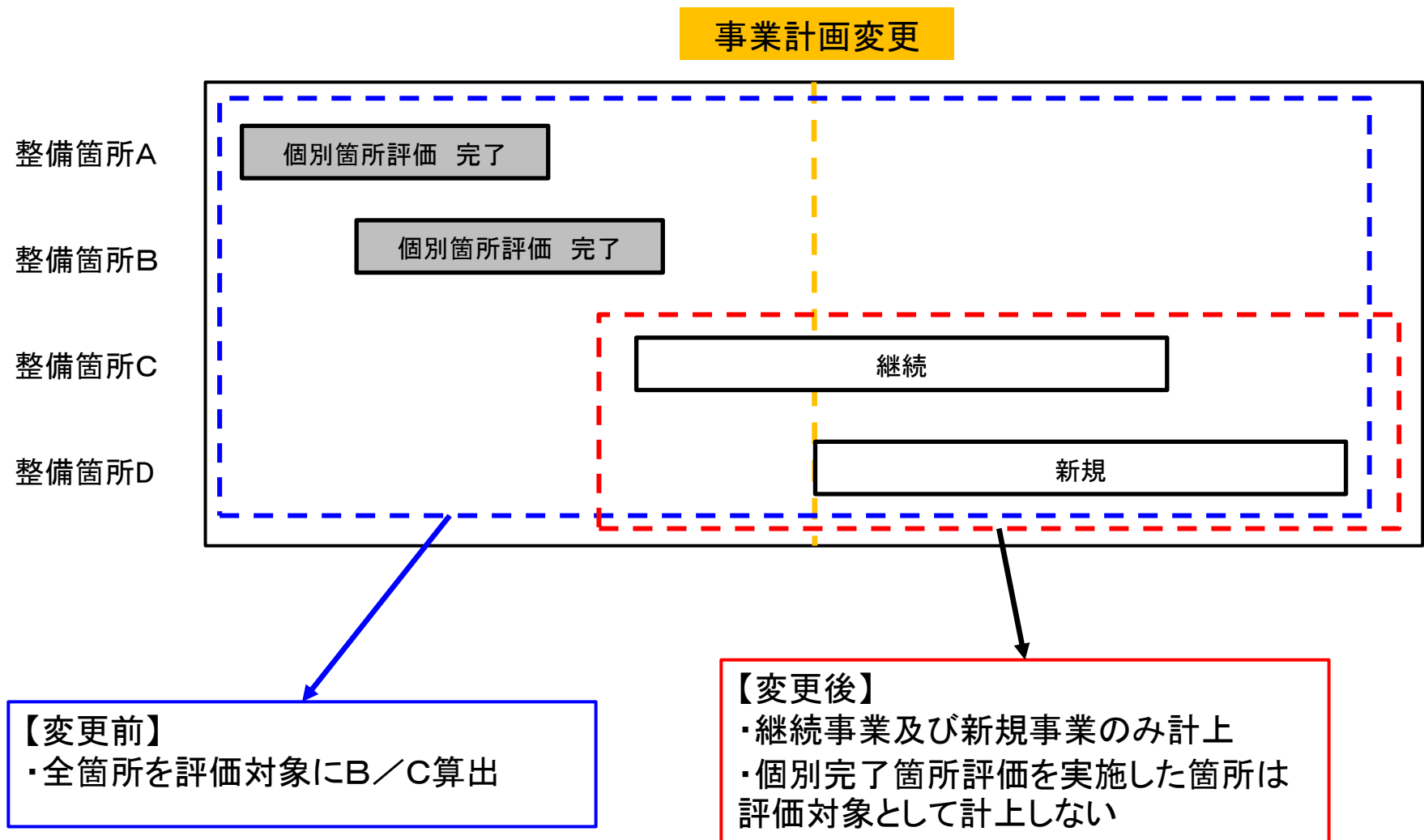
■B/Cの変化

- ・ 上記の要因によりB/Cが変化

※総合水系環境整備事業では、令和4年度に実施する事業評価から、事業計画の変更により当該事業計画外の整備内容で個別完了箇所評価を実施した箇所については、評価対象として計上しないものとしている。

2. 総合水系環境整備事業の事業評価に係る運用の変更について

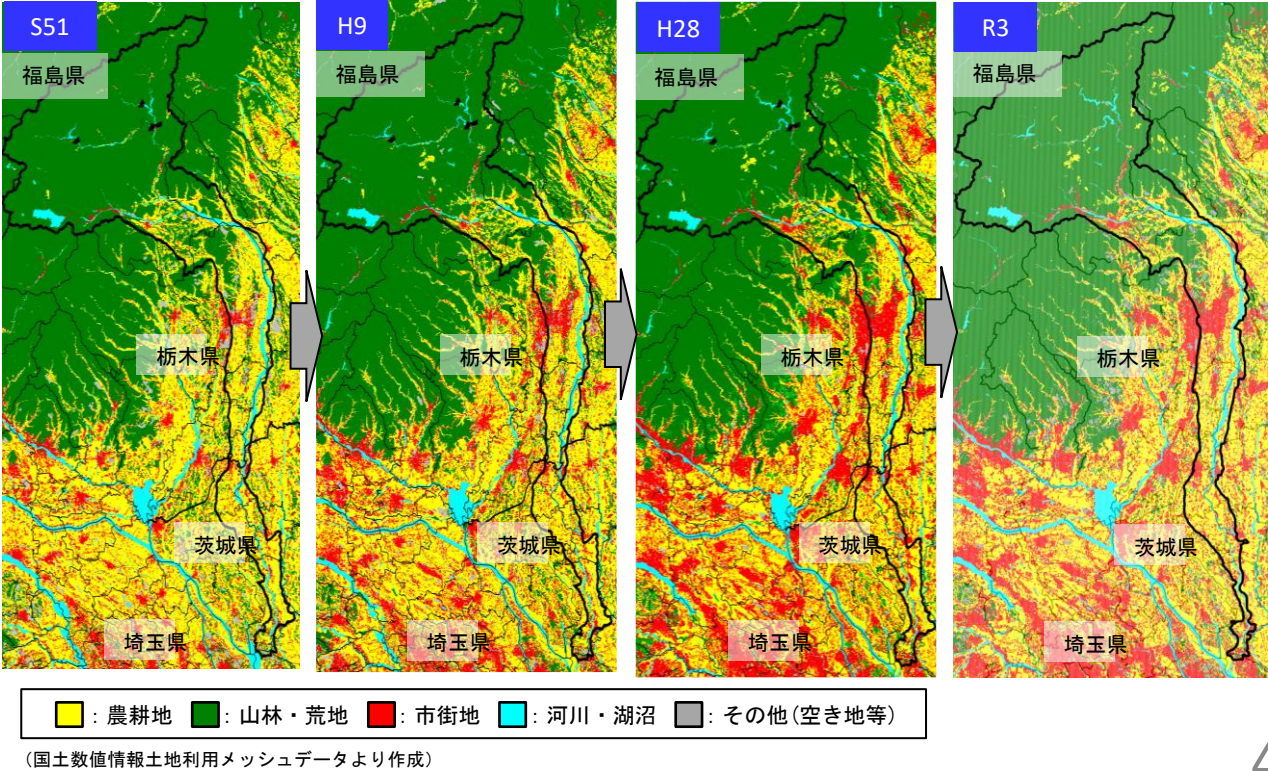
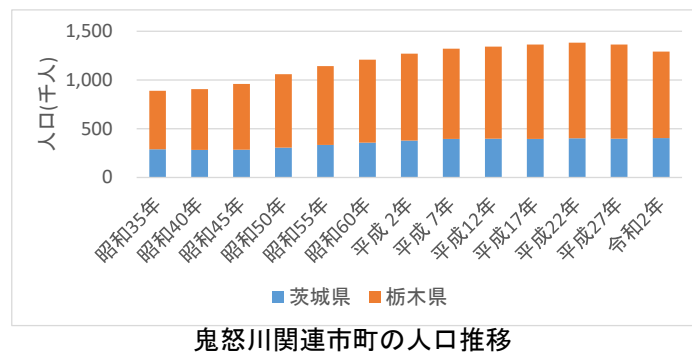
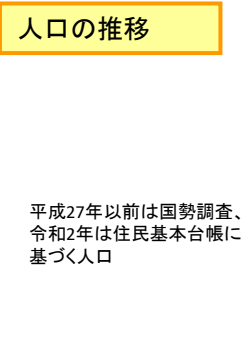
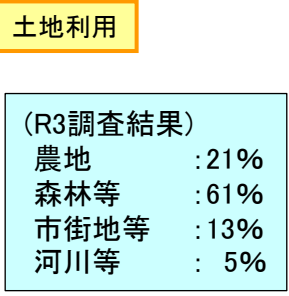
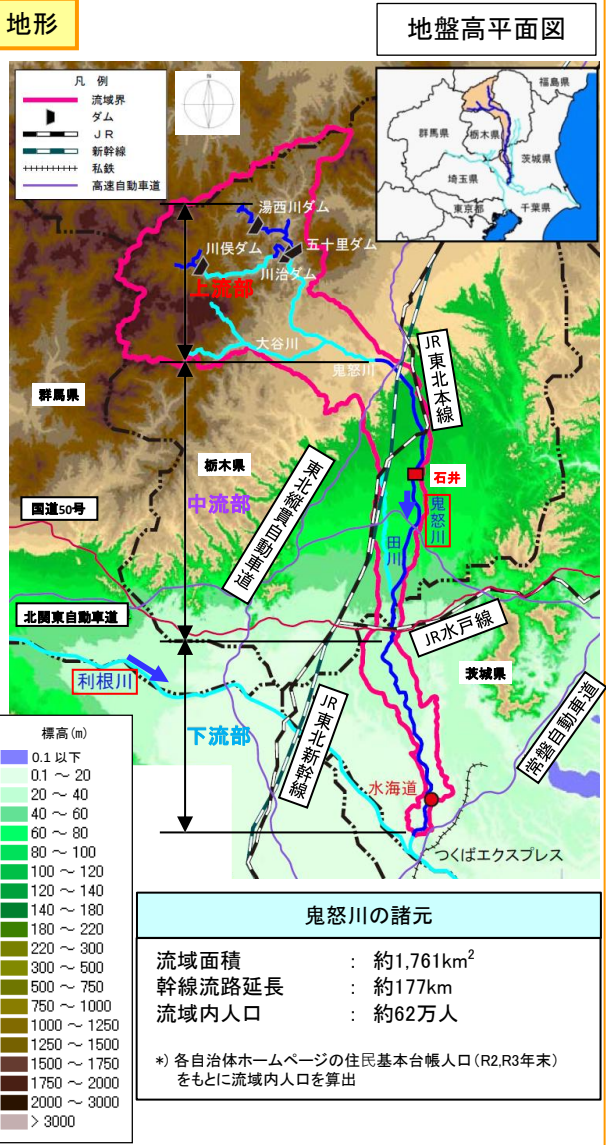
総合水系環境整備事業では、令和4年度に実施する事業評価から、事業計画の変更により当該事業計画外の整備内容で個別完了箇所の評価を実施した箇所については、評価対象として計上しないものとしている。



3. 流域の社会情勢の変化 流域の概要

■鬼怒川は、栃木県と群馬県との県境近くの栃木県日光市の鬼怒沼（標高約2,040m）を水源とし、茨城県守谷市にて利根川に注ぐ一級河川である。

■鬼怒川流域はJR東北新幹線、JR在来線、私鉄、東北縦貫自動車道等高速道路の交通網が発達し、中流部から下流部にかけて宇都宮市、常総市をはじめとする都市が形成されている。土地利用は過去から現在にかけて市街地が増加している。流域内人口は増加してきたが、近年はほぼ横ばいとなっている。



3. 流域の社会情勢の変化 河川改修の経緯

- 明治40年、明治43年の大水害を契機として改訂した利根川改修計画と整合を図り、大正15年に鬼怒川改修計画を策定し鬼怒川河川改修に着手。
- 昭和48年に工事实施基本計画を改定。
- 平成9年の河川法改正を受け、平成18年に利根川水系河川整備基本方針を策定。
- 平成28年2月に利根川水系鬼怒川河川整備計画(大臣管理区間)を策定。
- 令和6年7月に気候変動を踏まえた整備基本方針の変更を実施。

治水計画の経緯	
1600年代 利根川の東遷 鬼怒川と小貝川の分離(鬼怒川大木開削)	
大正15年 鬼怒川改修計画 計画高水流量 : 3,600m³/s(石井)	昭和48年 工事实施基本計画 基本高水のピーク流量 : 8,800m³/s 計画高水流量 : 6,200m³/s(石井)
昭和10年 鎌庭捷水路完成 ・昭和10年9月 台風 ・昭和13年6・8月 台風	昭和58年 川治ダム完成(昭和45年着手) ・平成10年9月 台風第5号 平成9年 河川法改正
昭和14年 利根川増補計画改定 ※鬼怒川の流量は改訂なし ・昭和22年9月 カスリーン台風 ・昭和23年9月 アイオン台風 ・昭和24年8月 キティ台風	平成18年 利根川水系河川整備基本方針 基本高水のピーク流量 : 8,800m³/s 計画高水流量 : 5,400m³/s(石井) ・平成23年9月 台風第15号 平成24年 湯西ダム完成(昭和60年着手) ・平成27年9月 関東・東北豪雨
昭和24年 利根川改修改訂計画 基本高水のピーク流量 : 5,400m³/s 計画高水流量 : 4,000m³/s(石井)	平成28年 利根川水系鬼怒川河川整備計画 平成27年9月洪水規模の災害の発生の防止又は軽減 河道目標流量 : 4,600m³/s(石井) ・令和元年10月 令和元年東日本台風
昭和31年 五十里ダム完成(昭和25年着手)	令和3年9月 鬼怒川緊急対策プロジェクト ハード整備完了
昭和40年 工事实施基本計画 基本高水のピーク流量 : 5,400m³/s 計画高水流量 : 4,000m³/s(石井)	令和6年 利根川水系河川整備基本方針(変更) 基本高水のピーク流量 : 10,500m³/s 計画高水流量 : 4,700m³/s(石井)
昭和41年 川俣ダム完成(昭和32年着手)	

3. 流域の社会情勢の変化

事業を巡る社会経済情勢等の変化

3.1. 地域開発の状況

- ・「平成27年9月関東・東北豪雨」で、特に被害が大きかった鬼怒川下流域(茨城県区間)では、国、茨城県、鬼怒川沿線の7市町が主体となり、ハードとソフトが一体となった緊急的・集中的な堤防整備等の治水対策「鬼怒川緊急対策プロジェクト」が実施され、令和3年9月に工事が完了しており、令和7年は鬼怒川決壊より10年目の節目となっている。

3.2. 地域の協力体制

- ・関係市町(結城市、下妻市、常総市、守谷市、筑西市、つくばみらい市、八千代町)などで構成される「鬼怒川・小貝川かわまちづくり推進協議会」を平成30年に設立し、7市町が連携したサイクリングルート計画について協議を行い、水辺整備の基本方針やサイン類の設置方針、維持管理方針について合意した。令和6年9月より栃木県区間(宇都宮市、小山市、真岡市、下野市、上三川町)や、小貝川下流区間(取手市、龍ヶ崎市)に拡大し、19市町で構成している。



かわまちづくり計画登録証伝達式(H31.3.28)

3.3. 関連事業との整合

- ・鬼怒川緊急対策プロジェクトで整備される鬼怒川沿川の管理用通路や工事用道路を活用した、サイクリングロードの整備を行っている。
- ・常総線沿川地域の魅力向上と交流人口の拡大による地域の活性化を目的とする「ローカル線でゆく人と川の交流圏づくり推進協議会」(下妻市、常総市、筑西市、地域づくり団体、茨城県、下館河川事務所、鉄道事業者で構成)と連携して整備を進めている。
- ・茨城県下では常総市と下妻市が、「かわまちづくり下妻・常総活性化協議会」を組織し、地域活性化の取組を実施しているほか、サイクリングweb「ちゃりさんぽ」では、茨城県内の9自治体(結城市、筑西市、常総市、下妻市、桜川市、土浦市、稲敷市、阿見町、河内町)が参画し県内のサイクリングを通じたネットワーク化を推進している。
- ・栃木県下では、下野市、上三川町、壬生町の3市町が連携した「しかみみサイクリングルート」が設定されているほか、「栃木県自転車活用推進計画」に基づき設定された長距離モデルルートにより、サイクルツーリズムを推進している。

3.4. 河川環境等を取りまく状況

- ・中流部は、川幅が広く、広大な礫河原が形成され、カワラノギク等の礫河原固有の植物が生育する。
- ・下流部は、水際にヨシ等の湿性植物群落がみられ、オオヨシキリ等の鳥類が生息している。



カワラノギク



礫河原



オオヨシキリ



ヨシ原

3.5. 河川の利用状況

- ・鬼怒川の河川利用は、散策や広い高水敷を利用したスポーツが多い。
- ・堤防は日頃より散策やウォーキング、サンクリング等に利用されている。



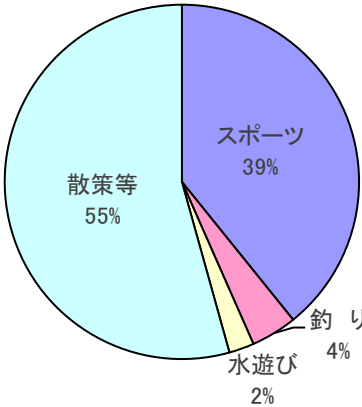
堤防のサイクリング利用



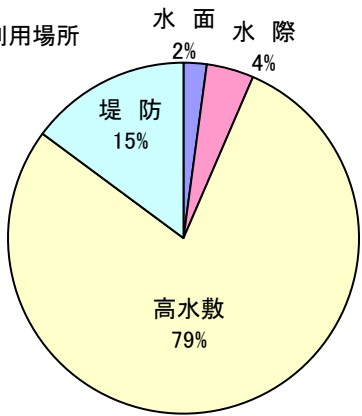
高水敷のスポーツ利用

(R6鬼怒川・小貝川水辺現地(空間利用実態)調査)

利用形態



利用場所



鬼怒川の河川利用者の利用形態と利用場所

(R6鬼怒川・小貝川水辺現地(空間利用実態)調査)

4. 事業の進捗状況と見込み等

4.2. 事業の進捗状況（継続事業）

【水辺整備】(鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業)

- 地域と連携して周遊性の向上及び魅力的な河川空間の形成を図ることを目的として、鬼怒川下流域で進めてきた鬼怒川緊急対策プロジェクトにおいて整備した管理用通路や、工事用道路を活用して、街と川の拠点をつなぎ、にぎわいを創出するサイクリングロード及び拠点整備を行っています。



決壊箇所全景



- ・前回事業評価時から令和6年度末までの整備状況は下記の表のとおりです。

分野	河川	個別箇所名	整備内容	単位	数量		残	整備期間
					全体計画	R6年度末		
水辺整備	鬼怒川	Ⅷ. 鬼怒川・小貝川 かわまちづくり水辺整備事業	サイクリングロード (管理用道路)	km	50.8	42.3	8.5	H30～R15
			リバースポット (基盤整備)	箇所	30	17	13	

※赤字:後述の計画変更後の数量・期間



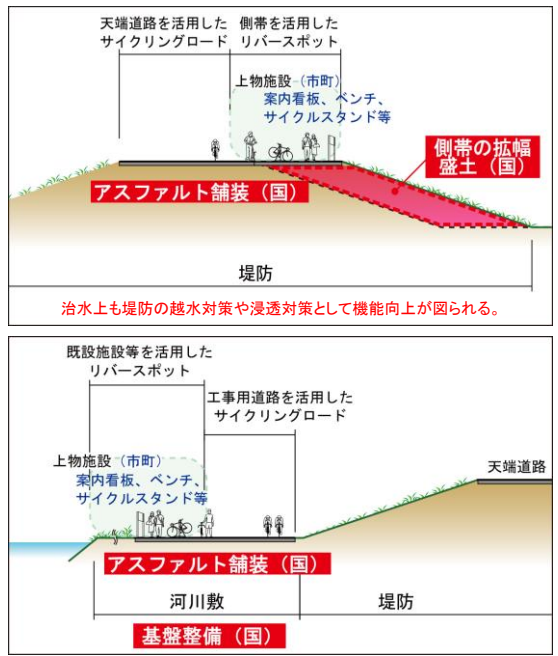
リバースポット:決壊の碑(上三坂)
側帯のアスファルト舗装

4. 事業の進捗状況と見込み等

4.2. 事業の進捗状況(継続事業)

【水辺整備】(鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業)

- 【水辺整備(鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業)】
- ・整備内容等については、関係市町(結城市、下妻市、常総市、守谷市、筑西市、つくばみらい市、八千代町)などで構成される「鬼怒川・小貝川かわまちづくり推進協議会」を設立し、平成31年3月8日に「鬼怒川・小貝川かわまちづくり計画」が、「かわまちづくり支援制度」に登録されました。
 - ・令和元年9月23日には、常総市区間のサイクリングロード開通に伴い、鬼怒川堤防上で開通セレモニーを行いました。令和2年11月8日には、ビアスパーク下妻を発着点とした下妻・常総周遊コースで試走会を行い、コースの特性や安全性等を確認しました。
 - ・令和3年8月20日に「鬼怒川・小貝川かわまちづくり計画(変更)」が、「かわまちづくり支援制度」に登録されました。
 - ・令和7年8月1日に「鬼怒川・小貝川かわまちづくり計画(変更2回)」が、「かわまちづくり支援制度」に登録されました。



4. 事業の進捗状況と見込み等

4.2. 事業の進捗状況(継続事業)

【水辺整備】(鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業)



サイクルスタンド贈呈式
(常総市による整備)



サイクルトレイン状況
(関東鉄道(株))



「いばチャリin下妻・常総」
(LuckyFM茨城放送主催イベント)
(R4.11開催)



サイクリングルート名称、ロゴマークの制作
(左上: 鬼怒川小貝川サイクリングロード
ネーミングWS (R5. 11))



常総衛生組合周辺RS完成
状況(R6年度市整備)



福岡堰さくら公園RS完成状況
(R6年度市整備)

リバーズスポット整備状況

4. 事業の進捗状況と見込み等

4.3. 事業の見込み等(整備内容の変更)

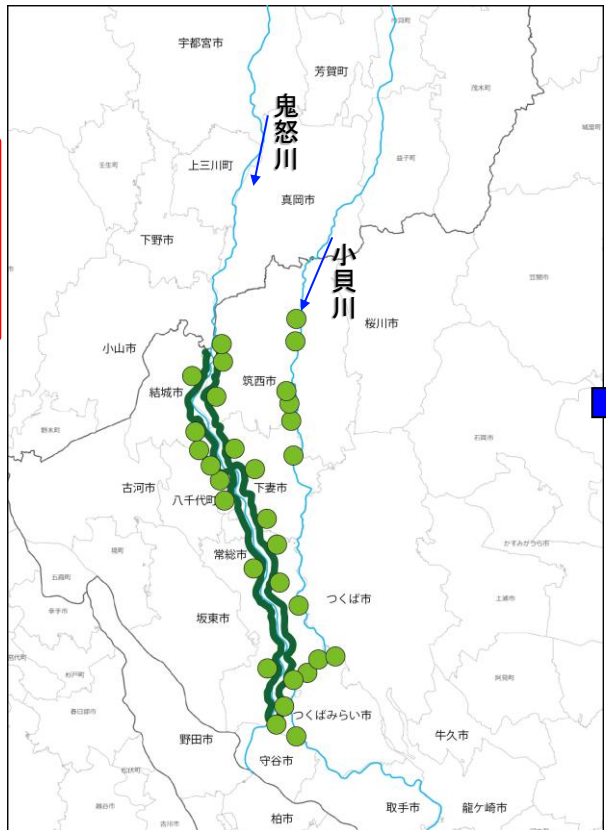
【水辺整備】(鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業)

【水辺整備(鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業)】……事業費 約6.0億円増額、6年間の事業期間追加、整備箇所数の追加

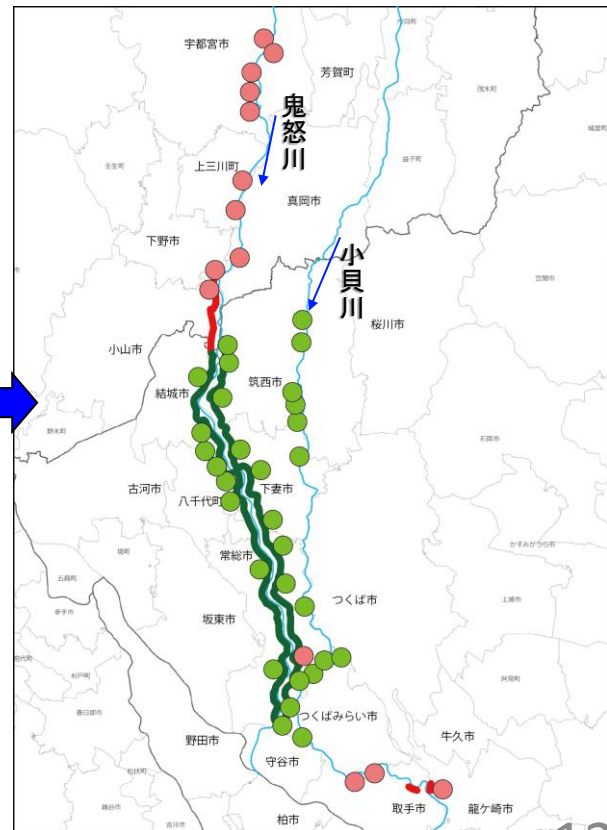
・鬼怒川・小貝川かわまちづくりのよりの層の拡大を図り、整備区間を延伸することによる、鬼怒川・小貝川を基軸とした茨城県・栃木県内の沿川自治体の一体的なネットワークを構築(サイクリングルートとの連携強化や接続)を目的として、「鬼怒川・小貝川かわまちづくり推進協議会」における検討を経て、サイクリングロード・遊歩道、サイクリングロード・遊歩道、リバースポットの整備箇所及び箇所数が増加となりました。

整備計画の変更

河川	整備計画	前回 (R3)	今回 (R7)
鬼怒川	サイクリングロード・遊歩道	42.3km	50.8km
	リバースポット	19箇所	30箇所
小貝川	サイクリングロード・遊歩道	-	1.0km
	リバースポット	11箇所	14箇所



前回評価時(R3)



今回(R7)

【凡例】

河川

サイクリングロード・遊歩道整備範囲(R3まで)

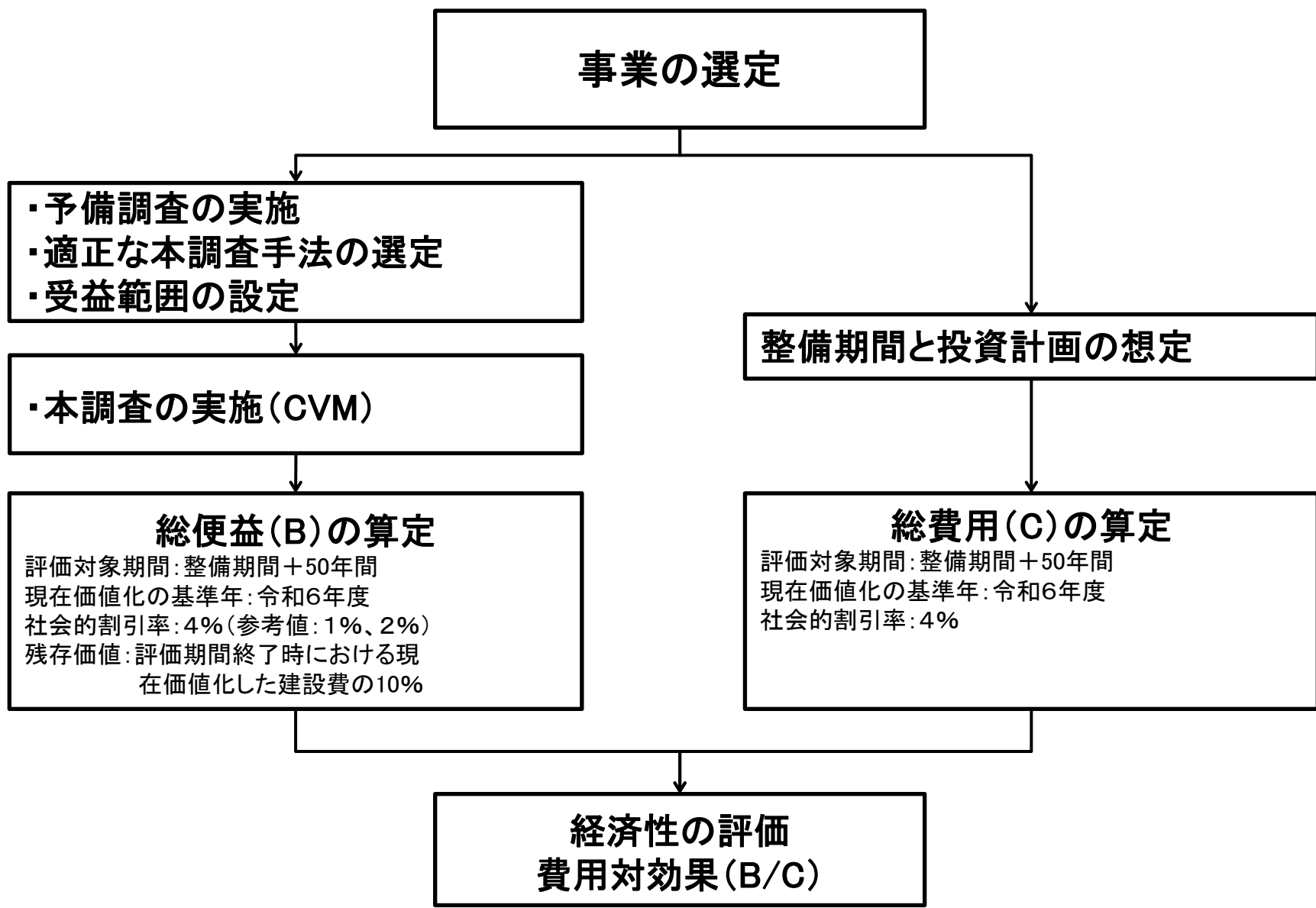
サイクリングロード・遊歩道整備範囲(R7追加)

リバースポット整備箇所(R3まで)

リバースポット整備箇所(R7追加)

5. 事業の投資効果

5.1. 費用対便益の算定方法



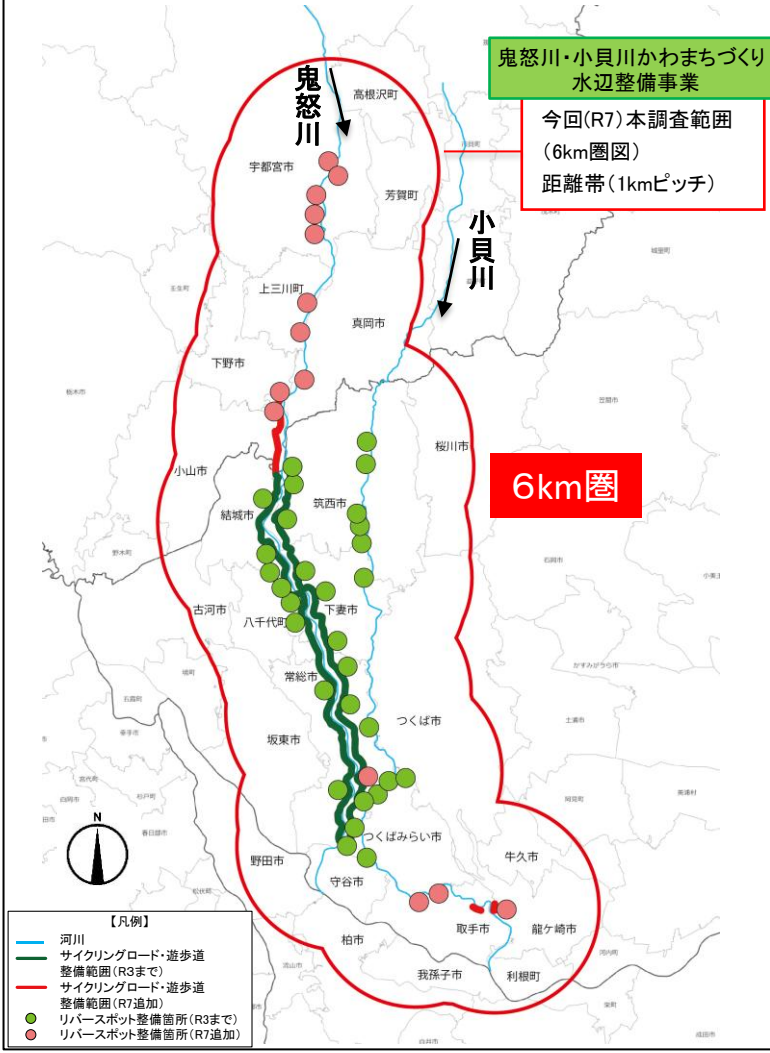
5. 事業の投資効果

5.2. 費用便益分析(水辺整備)(鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業)

- 1) 受益範囲の設定
- 2) 支払意思額
- 3) 費用便益比

・予備調査結果より、現在の来訪頻度の変化点がみられる6km圏を受益範囲として設定しました。

※鬼怒川・小貝川の両河川を一体で整備する事業のため、一括で評価を実施しています。

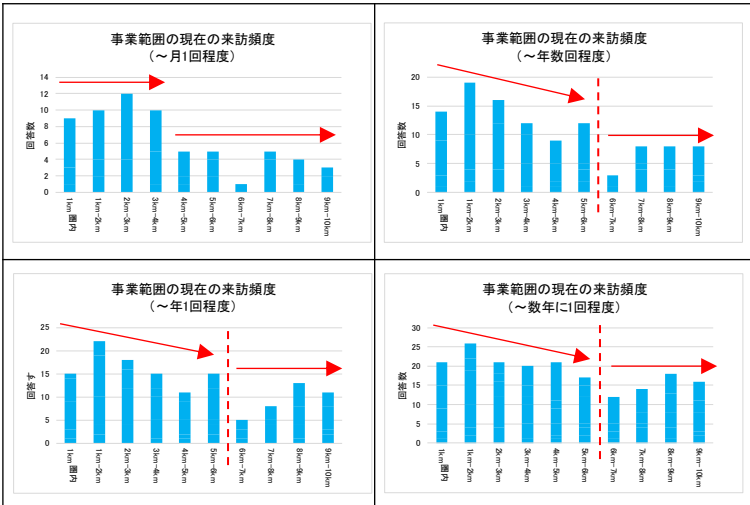


項目	水辺整備
	鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業
受益範囲	整備地区から6km圏
受益世帯数	433,419世帯(R2 国勢調査)
調査概要	調査方法 Webアンケート
	①配信数 13,398票
	②回収数(②/①) 900票(6.7%)
	②有効回答数(③/②) 627票(69.7%)
支払意思額(WTP) 月・世帯当たり	266円

項目	水辺整備
	鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業
基準年	令和7年
評価期間	整備期間+50年間
総費用(C)	①事業費 21.6億円(19.0億円※¹)
	②維持管理費 1.9億円(1.9億円※¹)
	③総費用(①+②) 23.5億円(20.9億円※¹)
総便益(B)	217.3億円(191.9億円※¹)
費用便益比(B/C)	9.2(9.1※¹)

※¹: 鬼怒川で整備する箇所の数値(総便益については、鬼怒川・小貝川それぞれの事業費で按分した値。)

※表示桁数の関係で計算値が一致しない場合があります。



⇒日常的な利用は4kmまでの範囲が多く、レジャーなどの利用を含めると6kmまでの居住者の利用が多いと考えられるため、事業範囲より6kmを受益範囲とした。

- ※予備調査の概要
- ・調査範囲 : 10km圏
 - ・手法 : WEBアンケート
 - ・配信数 : 10,004票
 - ・回収数 : 400票
 - ・回収率 : 4.0 %
 - ・有効回答数 : 248票
 - ・有効回答率 : 62.0 %

受益範囲(整備地区から6km圏)

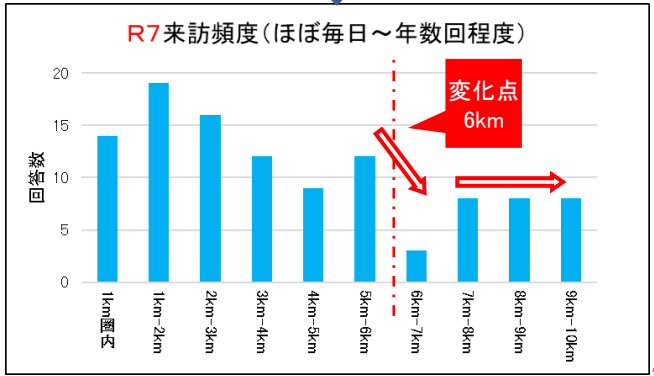
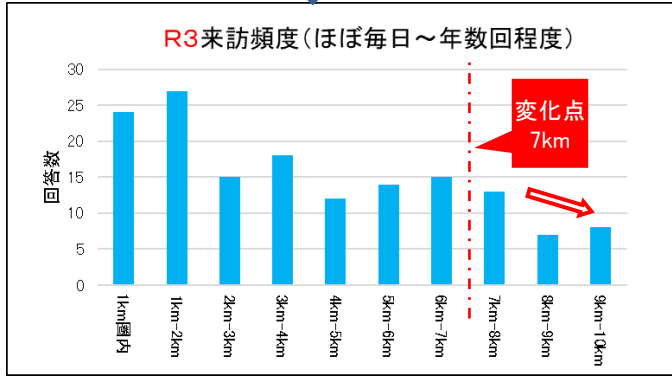
5. 事業の投資効果

5.2. 費用便益分析(水辺整備)(鬼怒川・小貝川かわまちづくり水辺整備事業)

○サイクリングロード・遊歩道、リバースポットの追加整備により、改めて受益範囲を設定するため、予備調査を実施した。

○予備調査は、前回調査と同様に10km圏を対象にwebアンケートを行い、受益範囲を6kmとした。

		前回 (R3)	今回 (R7)
予備調査 アンケート	調査方法	Webアンケート	Webアンケート
	アンケート配布範囲	整備範囲から10km圏	整備範囲から10km圏
	アンケート配布数	4,304票	10,004票
	アンケート回収数	400票 (各距離帯の回収数を40票に設定)	400票 (各距離帯の回収数を40票に設定)
	有効回答数	302票	248票
	有効回答率 (%)	75.5%	62.0%
アンケート結果 (本調査アンケート実施範囲)		【受益範囲を7km圏に設定】 予備調査webアンケートによる距離帯ごとの来訪頻度 「ほぼ毎日～年数回程度」の利用者の積み上げが7kmを境に8km以遠では低くなる (概ね7km圏までの利用者が見込まれる)	【受益範囲を6km圏に設定】 予備調査webアンケートによる距離帯ごとの来訪頻度 「ほぼ毎日～年数回程度」の利用者の積み上げが6kmを境に6km以遠で減少している(～年1回程度、～数年に1回程度の集計も同様の傾向) (概ね6km圏までの利用者が見込まれる)



5. 事業の投資効果

5.2. 費用便益分析(鬼怒川全体)

■ 総便益(B)

- ・受益範囲の住民を対象としたCVMアンケートにより、支払い意思額(WTP)を把握。
- ・支払い意思額(WTP)に受益範囲の世帯数を乗じて年便益を求め、分析対象期間の総便益を算定。

■ 総費用(C)

- ・事業に係わる事業費と維持管理費を計上。

● 計算条件

基準年次	: 令和7年度※1
分析対象期間	: 整備期間+50年
便益の算定方法	: CVM(仮想市場評価法)
世帯数データ	: 令和2年国勢調査
対象事業	: 水辺整備 Ⅷ. 鬼怒川・小貝川かわまちづくり
受益範囲の世帯数	: 水辺整備 43万世帯
事業費	: 約19億円(消費税込み)
総便益(B)	: 約192億円(約611億円※2)
総費用(C)	: 約21億円(約22億円※2) (消費税抜き)
費用便益比(B/C)	: 9.1
(参考比較値)	: 19.4(社会的割引率1%) 15.0(社会的割引率2%)

[参考: 前回評価(R3)]

基準年次	: 令和3年度
分析対象期間	: 整備期間+50年
便益の算定方法	: CVM(仮想市場評価法)
世帯数データ	: 平成27年国勢調査
対象事業	: 自然再生 Ⅰ. 鬼怒川遡上環境改善 Ⅱ. 鬼怒川礫河原再生 水辺整備 Ⅲ~Ⅶ. 千代川水辺の楽校整備等 Ⅷ. 鬼怒川・小貝川かわまちづくり
受益範囲の世帯数	: 自然再生 17万世帯 水辺整備 36万世帯
事業費	: 約65億円(消費税込み)
総便益(B)	: 約565億円(約1,047億円※2)
総費用(C)	: 約113億円(約69億円※2) (消費税抜き)
費用便益比(B/C)	: 4.9
(参考 Ⅷ(鬼怒川分)のみのB/C)	: 11.0)

※1: 令和7年度の費用便益分析では、「総合水系環境整備事業の事業評価の運用」の一部の変更(R3.12)により、完了評価済みの箇所は、水系の事業評価から除外することとなったため、継続箇所(Ⅷ. 鬼怒川・小貝川かわまちづくり)で算定しています。

※2: 基準年次における現在価値化前を示す。

5. 事業の投資効果

5.2. 費用便益分析(鬼怒川全体)

水系全体における費用便益費(鬼怒川)

- ◆総便益(B) ・沿川住民を対象としたCVMアンケートにより支払意思額(WTP)を把握。
・WTPから年便益を求め、評価期間を考慮し、残存価値を付加して総便益を算定。
- ◆総費用(C) ・事業に係る事業費と維持管理費を計上。

分野	個別箇所名	総費用 (C)	総便益 (B)	費用便益比 (B/C)	備考
水辺整備	VIII. 鬼怒川・小貝川かわまちづくり 水辺整備事業(鬼怒川)	20.9億円	191.9億円※ ¹	9.1	※鬼怒川分のみ
合計		20.9億円 現在価値化前 22.4億円	191.9億円	9.1	

※¹ : 総便益については、鬼怒川・小貝川それぞれの建設費で案分した値。
※総費用(C)・総便益(B)は、社会的割引率等を考慮して現在価値化した値。
※完了評価済の箇所については、完了評価時の評価値を現在価値化して算定。
※表示桁数の関係で計算値が一致しない場合があります。

6. コスト削減の取組

- ・築堤工事で使用した工事用道路を高水敷サイクリングロードとして活用することで、コスト削減を図っています。
- ・新たに整備する天端サイクリングロードでは、法肩保護をプレキャストブロックから現場打とすることでコスト削減を図っています。

■工事用道路の碎石舗装を活用 (高水敷サイクリングロード)

《効果》

- ・路盤工としての碎石敷き均し費用の縮減

従来: 新設(表層アスファルト舗装+路盤工碎石敷設)

⇒ 2,984万円/km(経費込・税抜)



コスト削減実施後: 表層アスファルト舗装のみ

⇒ 1,928万円/km(経費込・税抜)

■法肩保護の現場打コンクリート採用 (天端サイクリングロード)

《効果》

- ・現場打コンクリートによる施工費縮減

従来: (オーバレイ舗装+舗装止縁石+法肩盛土+張芝)

⇒ 3,944万円/km(経費込・税抜)



コスト削減実施後: (オーバレイ舗装+法肩保護現場打コンクリート)

⇒ 3,764万円/km(経費込・税抜)



築堤工事で使用した工事用道路の碎石舗装

工事用道路延長41.38kmで約4.4億円の
コスト削減

※(既計画実施済分)



従来整備



コスト削減後整備イメージ

新規整備延長8.5kmで約15.3百万円の
コスト削減
(更に30年で+約15.1百万円の除草費用も削減)

※(変更計画実施予定分)

7. 関連自治体等の意見

・再評価における県の意見は以下の通りです。

関係県	再評価における意見
茨城県	鬼怒川は、散策やスポーツなど沿川住民に親しまれており、完了した鬼怒川緊急対策プロジェクトと合わせ、地域と連携した周遊性の向上や誰もが安全・安心に利用できる魅力的な水辺空間の整備が必要となっていることから、本事業の継続を希望します。併せて、事業実施にあたっては、徹底したコスト縮減を図るとともに、地元の意見に配慮しながら事業を進めていただくことを要望する。

関係県	再評価における意見
栃木県	鬼怒川における環境整備は、良好な水辺空間の形成による地域の賑わい創出に資することから、事業継続を要望します。

8. 今後の対応方針(原案)

1) 事業の必要性に関する視点

①事業を巡る社会情勢等の変化

- ・鬼怒川は、周辺地域における貴重なオープンスペースとして散策やスポーツなど多くの人々に利用されており誰もが安心、安全に利用できる施設や空間整備の必要性はますます高まっています。
- ・本事業を推進することにより、鬼怒川の周遊性が向上するとともに、水辺と街のネットワーク化が進むことで、関係自治体や住民からの期待は高まると考えられ、H27関東・東北豪雨により大きな被害を受けた鬼怒川下流域における地域活性化となることが見込まれます。

②事業の投資効果

令和7年度評価時	B/C	B(億円)	C(億円)
利根川総合水系環境整備事業 (鬼怒川環境整備)	9. 1	191. 9	20. 9

2) 事業の進捗の見込みの視点

・今後の実施の目処、進捗の見通しについては、特に大きな支障はありません。

3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

・各施設の効率的・効果的な運用方法を検討し、維持管理に際しても一層のコスト縮減に努めます。

4) 対応方針(原案)

・当該事業は、鬼怒川緊急対策プロジェクトにより完成した堤防等の更なる活用、既存サイクリングルートとの接続により、地域と連携した周遊性の向上や魅力的な河川空間を形成するために、引き続き事業を継続することが妥当と考えます。

(参考)4. 事業の進捗状況と見込み等

4.2. 事業の進捗状況(完了箇所)

1)【自然再生】

・河川横断工作物に魚道を整備し、魚類の移動環境の改善を図りました。また、礫河原の冠水頻度を増加させ、外来植物の繁茂を抑制し、自然の営力により礫河原を保全・再生する取り組みを行いました。

分野	河川	個別箇所名	整備内容	単位	数量		整備期間
					全体計画	H27年度末	
自然再生	鬼怒川	I. 鬼怒川遡上環境改善事業	魚道	箇所	4	4(H23完了)	H17～H28
		II. 鬼怒川礫河原再生事業	礫河原再生	万m ²	60.8	60.8(H27完了)	H13～H29

整備状況

●魚道の改善(勝瓜頭首工)

整備前

大きな落差が形成され、魚の遡上が困難でした



整備後

大きな段差をなくし、幅の広い緩やかな魚道に改良したことで、アユやサケなどの魚類が遡上できるようになりました



●礫河原の創出

整備前

河原と流路の比高の拡大により冠水しにくい環境となったため、外来種が繁茂した場所では河原固有の生物が急激に減少していました



整備後

砂州の切り下げにより冠水しやすい環境となるとともに、外来植物が除去され、鬼怒川のもとの姿である礫河原が再生されました
再生後の維持管理に地元の小中学生や地元企業が参加し良好な環境を保持しています



(参考)4. 事業の進捗状況と見込み等

4.2. 事業の進捗状況(完了箇所)

2)【水辺整備】

- ・安全な水辺利用、自然学習の整備の充実に係る地域の要望に対し、自然学習などに利用できる水辺の楽校や安心して水辺に近づくことができる水辺空間の整備を行いました。
- ・令和6年度は、千代川水辺の楽校などで、鬼怒川河川敷をフィールドとした河川美化活動(ゴミ拾い)や、自然に親しみながら鬼怒川での自然体意見学習など、年間を通して活用されています。

分野	河川	個別箇所名	整備内容	単位	数量	整備期間
					全体計画	
水辺整備	鬼怒川	Ⅲ. 千代川水辺の楽校整備事業	場内整備	箇所	2	H14～H17
			坂路	箇所	1	
			階段	箇所	1	
			親水護岸	m	3	
			散策路整備	m	2,000	
			緩傾斜堤防	m	400	
			ワンド	箇所	1	
			せせらぎ水路	箇所	1	
		Ⅳ. 二宮町・鬼怒川 水辺プラザ整備事業	坂路	箇所	2	H18～H21
			親水護岸	箇所	1	
			散策路整備	m	1,700	
			高水敷整正	箇所	1	
		Ⅴ. きよはら水辺の楽校整備事業	坂路	箇所	1	H16～H19
			親水護岸	箇所	1	
			散策路整備	m	1,300	
			高水敷整正	箇所	1	
		Ⅵ. 草川環境整備事業	坂路	箇所	4	H14～H21
			階段	箇所	2	
			親水護岸	箇所	1	
			緩傾斜堤防	m	880	
			川裏盛土	m	300	
		Ⅶ. 鬼怒川・小貝川 水辺ツーリズム整備事業	坂路	箇所	4	H20～H21
			階段	箇所	2	
			散策路整備	m	2,800	



令和6年度の活動状況
(千代川水辺の楽校)
千代川水辺の楽校



二宮町水辺プラザ



きよはら水辺の楽校



草川環境整備事業

